

【報告】日本写真学会 第41回「写真好き」のための Online 講演会

東京都写真美術館開催「松江泰治 マキエタ CC」展示会
担当学芸員 伊藤 貴弘 氏 による解説と質疑付
2021年11月30日

日本写真学会 第41回「写真好き」のための Online 講演会 東京都写真美術館開催「松江泰治 マキエタ CC」展示会 担当学芸員 伊藤 貴弘 氏 による解説と質疑付 実施報告

開催内容とプログラム

開催内容

【開催日時】：2021年11月30日（火）14：00～15：30

【会場】：Online イベント

【主催】：一般社団法人日本写真学会「写真好き」のために定期講演会実行委員会

【形式】：東京都写真美術館図版の配信と学芸員解説（Zoom使用）

【参加条件】：日本写真学会会員限定

【参加費】：会員、学生……無料

プログラム

1. 東京都写真美術館開催中の「松江泰治 マキエタ CC」の図録紹介と解説
2. 担当学芸員 伊藤 貴弘氏による解説と質疑

【東京都写真美術館開催中の「松江泰治 マキエタ CC」】内容

東京都写真美術館開催の展覧会内容⇒ <https://topmuseum.jp/contents/current/index.html>

東京都写真美術館 2F 松江泰治 マキエタ CC 2021.11.9 -2021.1.23

展覧会ポスター：：https://topmuseum.jp/upload/3/4031/makietaCC_flyer.pdf

展示作品リスト；[Booklist_makietaCC.pdf \(topmuseum.jp\)](#)

作家略歴：松江泰治 | Matue Taiji

1963年、東京都生まれ。1987年、東京大学理学部地理学科卒業。2002年、第27回木村伊兵衛写真賞受賞

『gazetteer』（2005年）、『CC』（2005年）、『JP-22』（2006年）、『cell』（2008年）、『jp0205』（2013年）、『LIM』（2015年）、『Hashima』（2017年）など写真集多数。主な個展に「世界・表層・時間」IZU PHOTO MUSEUM（2012年）、「地名事典 | gazetteer」広島市現代美術館（2018年）など。

【担当学芸員 伊藤 貴弘 氏】

東京都写真美術館開催「松江泰治 マキエタ CC」展示会 担当学芸員 伊藤 貴弘 氏 紹介

伊藤 貴弘 ITŌ Takahiro

東京都写真美術館学芸員。1986年東京生まれ。武蔵野美術大学美術館・図書館を経て、2013年より東京都写真美術館に学芸員として勤務。

関わった主な展覧会に「いま、ここにいる—平成をスクロールする 春期」展、「山崎博 計画と偶然」展など。

【講演会状況】



伊藤貴弘学芸員によるオンライン講演



伊藤貴弘学芸員と参加者によるオンライン記念撮影

実施結果

- 11月30日参加状況：一般参加(実行委員含む)15名、講師1名、総勢16名
- 担当学芸員 伊藤 貴弘 氏 による作品紹介と解説・質疑付

(1) 作家 松江泰治 の紹介

松江泰治(1963年、東京都生まれ)は世界各地の地表を独自の視点で写してきました。作家が撮影時に設けた、画面に地平線や空を含めない、被写体に影が生じない順光で撮影するといったルールは、写真の本質を問い直すような平面性を生み出しています。本展では、作家がこれまでに制作してきた作品の中から、〈CC〉と〈makieta〉という二つのシリーズを、初公開となる新作も交えて紹介します。2001年から制作されている〈CC〉は、「シティー・コード」(City Code)を略したシリーズ名の通り、各作品のタイトルには撮影地の都市コードが付されています。

ギリシャのアテネから撮影が始まったこのシリーズでは、作家が訪れた世界各地の都市の諸相が克明に写し出されています。画面全体にピントを合わせることで、奥行きが取り除かれ、画面上にあらゆるものが等しく存在しています。

一方、2007年から制作されている〈makieta〉の作品にも、都市コードや地名が付されています。「makieta」(マキエタ)とはポーランド語で模型を意味し、実際の都市や自然を撮影した他の作品と同じルールで、世界各地の都市や地形の模型が写されています。エクアドル・キトの博物館に展示されていた模型を起点に、レンズを通して模型から立ち現れる風景には、現実と見紛うほどの精巧さがあり、その曖昧な境界は写真の本質を浮き彫りにします。

ミッドキャリアでの個展となる本展では、最新作を含む二つのシリーズを通して作家の現在地を示すとともに、その表現の可能性を探ります。

(2) 作品紹介(「松江泰治マキエタ CC」展に展示の作品)

「松江泰治マキエタ CC」展の図録に掲載されている作品の電子データを順次紹介すると共に、作者の意図や作品のどこを取り出してもピントが合っている精密・緻密な画像作りの紹介があった。

作品紹介時(作品画像を観ながら)に、参加者からの質問にも答えて頂き、参加者は講師からの視点や質疑のあった作品の箇所や新たな視点・観点から作品を観て、堪能することが出来た。

講師から、「是非展示中の大判プリントを観て欲しい」との投げ掛けと参加者からの「是非、作品を観たい」との声が多く出された。

(3) 第41回「写真好き」のための定例講演会アンケート結果【自由記述】

設問	今回の講演について具体的な感想をお聞かせください。
	興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございました。
	丁寧な解説をありがとうございました。器材や撮影方法の情報が知りたかったです。
	全てデジタルでの撮影かと思いましたが、銀塩の8x10なども使われているとのことでした。
	会場に行って、プリントで見たくくなりました。
	通常の写真作家・写真作品の範疇からはみ出て、現代美術寄りの作家がどんな表現をしているのか興味がありました。学芸員の方の適切な解説で理解が深まりました。
	オンラインのため展示物のディテールが伝わりにくいのが残念です
	知らなかった世界を知ることができ、たいへん参考になりました。
設問	今後期待するテーマや希望する講演者等がございましたらご記入ください。
	今回の様に、アート表現として広い分野でのテーマを希望します。
設問	講演会全体についてなんでも結構です。ご意見、ご要望がございましたらご記入ください。
	撮影に適した地形や模型がある都市を探ること自体が難しいと思いますので、たいへんな調査と準備期間をかけた作品だと感じました。
	全体に大変円滑な運営で、楽しく参加できました。ありがとうございます。
	次回は実開催ですが、コロナ感染が落ち着いている間は出来るだけ実開催を希望します。 ⇒次の第42回は、リアルでの開催を行いました。神奈川県立近代美術館葉山本館/鎌倉別館

(参考) 東京都写真美術館ホームページ掲載のインタビュー記事

⇒ <https://topmuseum.jp/contents/images/eyes/eyes107/HTML5/pc.html#/page/2>